

学童保育施設におけるグループワークⅢ

— グループ・プロセスと個人の成長 その2 —

田 中 美奈子
須之内 玲 子

I. 研究報告の意義

この研究報告は、小論「学童保育施設におけるグループワーク—指導員の専門性についての考察—」(1)の実践篇、実証篇である「学童保育施設におけるグループワークⅡ—グループ・プロセスと個人の成長その1」(2)に続くものである。この「グループ・プロセスと個人の成長その1」においては、学童保育という生活集団のグループ・プロセスが如何ようであるかという視点からM学童保育クラブの実践を紹介し、考察を加えたものであり、研究テーマである「グループ・プロセスと個人の成長」の前半部分に相当するものであった。今回の研究報告は、個人の成長過程に焦点を合せたものであり、後半部分に相当する。

グループ・プロセスについて述べる時、抽象的に表現することは可能ではあるが、グループ・プロセスは、まさしくメンバー、ワーカーという個人の言動とそれらの相関的な具体的言動の蓄積と総体を包含するものと考えられることから、必然的に個人の成長についても具体的に触れざるを得なかった。然し乍ら、前回の研究報告における個人の成長過程に関する記述は、二次的な意味をもつものであった。

ここにおいて、僅か2例ではあるが典型的な事例、1例は問題行動の多い児童、他の1例は消極的な児童の成長について、やはり、グループ・プロセスとは切り離しては考えられないことを確認しつつ考察をすすめる積りである。この事例の2人は、各々異なった型の言動でグループの雰囲気や活動に様々な影響を及ぼしているため、個人の成長過程を明確に示し得る事例

であり、かつ、グループ・プロセスという観点からは、逆にグループ全体に及ぼす個人の行動と役割を考察する目的をも満たす事例であると考えられる。

この意味において、2事例について前回のグループ・プロセスに関する研究報告を併読、吟味して頂ければ、さらに鮮明な2人の成長過程が得られることと思う。前回の報告と合せて1つの報告として扱って頂きたい。

次に、この研究報告の特色について述べておきたい。実践例が通所施設ではあるが(1)日常生活集団を対象としていること、(2)3年間の長期にわたっていること、(3)月1回若しくは週1回の会合ではなく日曜と祭日を除く毎日行われる活動であること、(4)1日の活動時間が長いこと、(5)これらの諸条件により、一般的に見られる実践例のように、特定した時間における特定の集団場面を克明に記述、考察したものではなく、あくまでも3年間の全生活をトータルに捉えようと試みたことである。

更に、基本的に重要なことは、この実践がいわゆる「グループ・ワーク」の既成概念からフリーな視点をもって行われていることである。もっとも、以上の特色は、当然乍ら小論文(3)と前回の研究報告においても共通して言えることである。

II. 研究方法

1. 研究の対象と期間

前回の研究報告「グループ・プロセスと個人の成長その1」と同様である。M学童保育クラブ在籍児を対象とし、期間は昭和56年4月から59年3月までの3年間である。

2. 研究資料と方法

これも、前回の研究報告と同様である。資料を列挙するにとどめる。グループ記録(全指導員の当番制)、活動日誌、個人記録、グループ記録(専任指導員のみ)である。

この研究報告において、個人の成長を視点に据えながらも、グループ・プロセスと切り離して考察することは現実的ではないという意味において、もっとも厳密な方法をとるならば、各年度の構成メンバー全員を対象として全在籍期間の成長過程についての記述と考察が要求されるであろう。この方法を探るためには膨大な作業が必要なので、Iで述べたように2事例をあげて考察することにした。なお、事例Aはマサヨシ君(仮名)、事例Bはヒロト君(仮名)である。

Ⅲ. グループ・プロセスと 個人の成長

―事例A―

1. 1年目の成長過程

(1) 個人の主な動き

第1期 準備・開始期(4月上旬～5月中旬)

入学式の翌日、初参加の7日は、1年のジュンヤとミニカーで遊んだり、他の1年生2名とプロレスごっこをした位で、目立った動きはなかった。しかし、服装は汚れていて、だらしなく、鼻をたらし、悪い目つきをしている。非常勤ワーカーをたいた。次の日と2日間だけの参加で、18日まではやり目のため欠席し、ハンディを負ってのスタートとなる。

19日、久しぶりに参加した彼は、2、3年生の男子で盛んに野球が行われていたのに刺激され、野球に興味を示す。以来、彼の要求で連日、ワーカーが投げた球を打つというのが彼の生活の中心となる。すでに、他の1年生は20日頃には、上級生の野球の仲間に加わるようになっていたが、彼はやっと5月14日に1年生同志とやることができるだけだった。5月に入り、2、

3年生を中心にドッジボールが盛んになり、他の1年生と同様、ボールを投げたり、受けたりワーカーと熱心に練習し、徐々にだがドッジボールに加わるようになる。

彼の特徴を表す言動をいくつか示すと、ワーカーが何か聞いても、「うん」「ううん」の返事が殆んどで、21日ワーカーに弓矢作りを教えてと催促する時に「ウォー」と言ったように、自分の要求を言葉に表現できない。「ウッセイ」「関係ネエダロ」「いいじゃん」等貧しい語彙で、大人を全く信用していない態度が明らかであった。21日の弓矢作り、22日の折紙、ヒコーキ作り、5月8日のパラシュート作りなどハサミ、セロテープなど全く使うことができない。運梯を始め運動能力などすべての能力が全く開発されていないことが伺える。友人との関係では、21日には女の子のゴム段の邪魔をする。5月6日にはマサツツのパチンコの釘をつぶす。13日にはヤスヨリのぬり絵をハサミで切る、なぐる、けるなど、他の子とのトラブルは1日5、6回は必ずあり、そのために泣く子が多い。また、怪我をしても泣かないなど感情の表出が少ない。

しかし、4月23日ワーカーに野球の相手をしてもらって、ニコニコと顔つきが変ってきたり、5月14日「オレ、木に登ったんだゾ」とワーカーに言うなど明らかに変化の兆しが見え始める。

母親は、入会時の面接で「1年半の保育園の生活では、先生の話を理解できず騒ぐ、友人もできない、絵は描かない、ボール投げやなわとびもしない、嘘をつく、自分が悪くても人のせいにする、近所にも友人はない」と述べている。

第2期 上昇発展期(5月中旬～7月25日)

下校後すぐ、ワーカーに球を投げてもらい1時間近く2人だけで、バッティングをするという生活パターンが続けられた。

2、3年生を中心に野球、ドッジボールに加え、6月に入り盗塁、23日からはリレーと新たな遊びが展開

され、この頃には1年ユウタらの参加もみられるようになるが、マサヨシはドッチボールにたまに参加する時があるだけである。6月20日、2、3年生でやっているドッチボールに入りたいと言うが、全員いやだと言った。ワーカーの援助で入れてもらえたが、このように乱暴、暴言、技術の稚拙さのせいで上級生に嫌がられている。

5月18日、ヒロユキと仮面ライダーごっこ、28日、ブレハブでエイキ、テツシ、アキトシとままごと、6月23日には、テツシと写し絵を売る店屋ごっこというように1年生同志との交流が生まれ、遊びもスポーツ一辺倒から変化が見られるようになる。しかし、他のメンバーが気の合う仲良しを形成していくこの時期に固定した友人を作ることはできなかった。5月18日には、3年ユリが、彼の希望通り心よくおやつ当番に連れていってくれたり、同日、マサタツがカナヘビとり連れていってくれたり、7月3日には、3年のミチヨが店屋ごっこに入れてくれたり、上級生からの愛情を経験することとなる。

5月28日、独楽が初めて回せるようになり、新たな達成感を味わう。ワーカーは、その技術を着実に身につけ友人作りへ展開することを意図し、6月中旬まで毎日、何十回となく紐をまいてあげる。

5月18日、学校のガラスに石を投げ割る、27日には、学校の理科で栽培した朝顔の双葉を引き抜くなど学校に対するトラブルも多く、5月23日、シズの描いている画用紙を切る、26日、折紙を切り刻むなど女の子に対する攻撃的ないやがらせは、数は少しだけ減ったものの連日のことであった。人の物を盗る、嘘も目立つようになる。友人との関係ができるに伴って、今までは嫌がらせであった行動が自分の利害にからむ新たな局面に出合い喧嘩が急増する。6月20日のように相手が攻撃的なテツシの場合は、双方、椅子をふり上げる、ハサミを投げるというすさまじいものとなった。

しかし、5月28日、独楽の回せるようになった日に、ワーカーの回した独楽を見て「ワーきれい」と感動し

たり、6月20日のけんかでは初めて涙を流して泣いたり、また、6月12日には、独楽回しをしながらワーカーの膝に乗ってきたりするようになる。7月10日頃から、3年生ではあるが、攻撃的で、能力も劣るマサタツが、マサヨシを弟と呼び連れて歩き、自分が志村ワーカーに注意されるとマサヨシにお尻をたたきに行かせる等の命令をする。力に服従する行動パターンが身につけているため、その従順さは凄まじく、今までの成長の兆しは足踏み状態となる。

7月初めから、全員でキャンプ・ソングの練習を始めたが、逃げてしまうことが多かった。キャンプ・ファイヤー当日も席を離れ火の回りをウロウロと歩き回り、進行を妨げた。

第3期 再編成期（キャンプ・ファイヤー以後の小学校の夏休み期間）

7月後半と8月の月遅れお盆の前後、田舎に行くため長期間に互り休むことはあったが、それ以外は安定して出席しており、クラブでの生活が彼にとって快適であることが伺える。

学校のプールは、鼻、結膜炎の治療を継続しなかったため完治しておらず参加しなかった。そのためクラブのビニールプール遊びも、8月前半、連日10人以上の子で大騒わいだったが、これにも参加できなかった。心身ともに解放される貴重なチャンスを失った。夏休みの共同製作は、アルミ板を打ち出していく彫金だったが、釘で打つ作業が気に入ってよく参加した。

8月3日、久しぶりに参加。言葉使いは荒々しい。「越谷はつまんねえとこだよ。セミしかいねえ」と楽しみにしていた田舎行きは、彼の期待を裏切り、母親に怒られることの多い日々であったのが読みとれた。

5日、マサイチ、エイキ、ユウタと一緒に動物ごっこをしているところに、6人の男女が加わった。独楽、野球のように技を中心に遊ぶものだけでなく、各々が役割を分担し演じていく遊びに加われるようになった。マサヨシはポニーになっていた。ゲーム、メンコなど

沢山のメンバーと遊ぶことも多くなる。8月後半、木のバットでの野球が活発に行われるが、なかなか参加しようとしなかったが、31日ついに10人と一緒に野球をした。

25日の志村ワーカーの記録によると「いつもワーカーを見るとすぐとびかかってくるか、殴りかかってくるかしていたので、今日は最初の方でやらないと約束させた。すると本当にあまりやってこない。そのかわりなのか、西沢実習生と塩川ボランティアにかなり殴りかかっていた。ワーカーに関心を示してもらいたい気持ちがそうした表現になってしまうのだろう。」と書かれているように、非常勤ワーカーらに毎日乱暴をしていたようである。しかし、この頃からワーカーを「せん」と呼び、今までの母親に代表される信頼できない大人像から、大人でも子どもでもない新たな「せん」という信頼できる人間像を形成していることが伺える。

第4期 成熟期（9月～12月）

9月は、リレー、野球、ドッジボールと多人数でのスポーツが活発であったが、マサヨシはそれらのどれにも加わるようになる。少人数での野球もよくやった。18日はサトルら5人とリレー、マサタツら5人とドッジボール、その後、タカオら8人で家ごっこというように安定して友人と遊べる日も見られるようになった。10月には、多人数のスポーツは低迷となったが、少人数での野球は好んでやった。9月には、盛んになっていたくじ屋、店屋ごっこに全く係わる事がなかったが、10月14日に女の子ばかりでやっていた店屋ごっこに男1人で入り楽しく遊ぶ。23日には、前日初めて覚えた折紙を折って売る店屋をやる。ワーカー2人も各々20回以上客となる。

11月は、スポーツが下火となり、ビニールバットでの野球もたまに行われる程度になり、マサヨシも、鉄棒、絵かき、独楽、くじ屋、ウルトラマンごっこなどをし、遊びの種類が、ぐっと多彩になる。特に絵を全く描いたことがなかったが、10月中旬から、興味を示

し出した電車の本をクラブで購入したのをきっかけとし、それ以後、友人と、または一人で絵を描くことが多くなる。

10月3日、シンジが「マサヨシはマサタツの仲間、テツシはおれについてこい」の発言にもみられるように、マサタツについていることの多かったマサヨシは、その頃、優勢であったシンジにマサタツに蹴とばされたと、告げ口に行くなど権力に迎合していた。シンジ、ヒデミツの3人で組むことが多くなり、今までは1人で友人に乱暴をしていたのが、3人で組んで、10月31日女の子の家を壊すなどの行動が、10月特に目立って多かった。しかし、11月に入り、3人でのことは多いが、野球をしたり、絵と一緒に描いたり落着いて遊べるようになる。12月に入ってから、この関係にも固執しなくなった。

12月7日には、動物ごっこ、その後9人でガンダムごっこをするなど多人数での役割を演じる遊びができるようになる。それと共に、仲間意識も芽ばえ、乱暴されたヒロトを被いエイキに「あやまれよ」と言うほどの成長ぶりであった。

9月26日、お店からアイスを盗る、10月くじ屋ごっこでいんちきをする、11月に見学実習生を蹴る、ぶつ、髪の毛を引っばる、アウトでも騙して打ち続けるなどの行動は、徐々に回数は減ってはいるものの連日で、目を離せなかったことも事実である。しかし、メンバーに乱暴などをし、ワーカーに謝まるように言われ、謝まるようになったり、悲しい時に声を出して泣くなど子どもらしい感情の表出が見られるようになる。

9月4日「とに角、毎日先生と野球をしようとする」と記されているように、9月は、ボール投げ、キャッチボール、大きいボール投げ、独楽回しと一対一で相手をする事が多かった。10月、11月、12月とその要求の回数も、時間も月を経る毎に減っていった。今までワーカーとの関係は、運動、独楽回しと一緒にするものであったが、10月23日「何に乗ってきた?」と尋ねた日から、ワーカーと、興味を持っていた乗物の話

をすることが多くなり、11月中旬頃からは、どのワーカーにも「何色のバスに乗ってきた？」と連日尋ねるようになり、会話によるワーカーとの関係が持てるようになる。ワーカーの背中におぶさるようになり、ワーカーへの信頼感を深めていく。

第5期 安定期（1月～3月）

2月10日、マサイチ、ワーカーとボール投げをした後、マサエ、クミヨ、トモテルと絵描き、シンジ、ケンジ、ヒデミツ、ユウタ、ヒロト、ワーカーと一緒にサッカー。3月9日、ゲームウォッチを一人でできるところにテツシ、ヒデミツ、ユウタが寄ってくる。カズトが始めたシュリケン作りに、テツシ、ユウタ、ヒデミツと加わる。おやつ後は、13人でドッジボール。25日、シンジ、ヒロトとゲームウォッチ、ケンジら8人とワーカーでメチ当て、昼食後、シンジら8人とドッジボールをした後、半分メンバーが代り8人と野球。この野球は2時間15分続いた。おやつ後、12人でリレーをした。

遊びの種類は、1月はドッジボール、2月はサッカー、プロレス、3月になると悪漢が連日行われるというように多人数での遊びに変化はあるものの、上記3日に代表されるように多人数と一緒に、様々なメンバーと、様々な遊びをしている。

友人間のトラブルも激減する。しかし、2月1日には、ワーカーにしつこく絡み「マサイチ！カイ（ワーカー）としゃべるな！」と言ったり、16日には、サトル、ヒロトラとエイキをからかい、毛布を被せキックをし、怒ったエイキと15分位お互いに追いかけて回すなど攻撃的な言動もある。

下校後は、1～4期に続けられたワーカーとのバッティング、キャッチボールは、おしゃべりをするように変る。彼の関心が広がり、言語が発達し、更なる知識欲を満たそうとする人間的成長を示すものであった。

(2)処遇及び評価

処遇方針 情緒的に問題を持ち、乱暴な行動が目立つ、言語表現力が未熟、すべての能力が開発されていない、同じ保育園出身者がいない等のため、まず、ワーカーとの信頼関係を築き上げ、その上で友人との関係も築けるようにする。また、母親へのアプローチも考えた。

処遇方法・評価 4月当初、午前中、昼食時に1年生とワーカーの信頼関係を確立する貴重な時期に病気で欠席したため、まず、その分を取り戻さねばならなかった。2. 3年生を中心に活発に行われていた野球に興味を示した機会をワーカーは逃さず誘い、バッティング相手をする。まず、バットに球をあてた快感を経験させるためワーカーはもっぱらピッチャー役に徹した。特に非常勤ワーカーが、1、2期にかけては連日、1時間位相手を努めた。攻撃性をバットに球を当てる中に昇華させ、達成感を体験し、身体を動かすことにより抑圧された精神を解放し、技術の向上により友人との関係もできることも意図していた。それに加え、5月にはドッジのボールの投げっこ、下旬から6月にかけては独楽紐巻きと連日彼の要求を受入れた。学校でも、家庭でも注意されることが多く、攻撃的なマサヨシに一貫して受容的態度で接した。大人に対する根強い不信任が見られたので、彼に判りやすい形で一つづつワーカーは信頼できる大人であることを示していた。しかし、乱暴、意地悪には毅然とした態度で望み、謝まることも教えた。しかし、彼の言い分にも根気よく耳を傾け、暴力に訴えるのではなく、口で言うように教えた。友人関係を通じ、自己主張、協力、忍耐等人間関係の基礎を学べるようにした。

1期は、全くとするほど友人と遊べなかったが、徐々に野球、ドッジ、独楽回しにと友人と遊べるようになる。特に4期からは、すっかり運動好きとなり、多人数のスポーツによく加わった。店屋ごっこ、絵描きなどもするようになる。同期には、上級生との関係も生まれ、友人の数も増していく。友人との喧嘩もまだ少くないが、12月には他人の喧嘩の仲裁もしている。

5期には、サッカーで1時間、野球で2時間15分と長

時間トラブルなく遊べるようになる。勿論、ワーカーの審判の下ではある。

2月頃から連日のように「シンジ君がやめたら、オレもやめるからな!」と言い続けていたことでも明らかのように力の強い者に迎合し、弱い者に暴力を振う基本的行動パターンを身につけていたため、自分の頭で考えることも身につけさせていった。

9月ワーカー(非)がヒデオの竹馬乗りを見ていると投石、10月にはマサイチとワーカー(非)がボール投げをしていると木片を投げつける等バッティング相手をしてくれる非常勤ワーカーを自分のものと思っている行動であった。10月23日、専任ワーカーは野球相手を求められ、代り番に打つことを提案、試合としてやる。そのやり方はワーカーとの野球では初めての経験である。ワーカーは、三振してアウトになるというルール、打つだけでなくピッチャーをして我慢すること、ワーカーがいつもピッチャーとして奉仕するだけでなく打つ権利もあることも教えることを意図した。この頃から、野球相手の要求の数は減り、盛んにワーカーたちの背中におぼさって甘えてきた。できる範囲で受容した。同じ頃バッティング相手から人間のおしゃべりがワーカーとの関係の中心を成すものになっていき、ワーカーは丁寧に話し相手が続けた。

2. 2年目の成長過程

(1)個人の主な動き

第1期 準備・開始期(4月初旬～5月中旬)

2年生になったマサヨシは、4月9日に早速アキト、ジュンジ、ワーカーと独楽回し、タケトシと木工、19日にはノブキとプロレス、5月4日はケンイチとシーソーというように1年男子に個別的に近づいている。3年のサトルと共に、4月12日は1年男子5人と校庭でリレー等、ドッジボールや野球を多人数でする時もあると3年生、1年生とも遊ぶ場合が多い。26日に野球に入れてもらう迄は、野球よりもドッジボールや三度当ての仲間に入る方を選んでた。例えば、16日

2年のアツオ、1年のセイイチ、男子3人組(アキト、タケトシ、ジュンジ)、ユリとドッジボール、2回目はアツオ、ユウタ、マサシ他2人、卒園児マサタツと、3回目は3年のヒデミツ、サトル、2年のユウタ、ヒロト、トモテル、テツシ、卒園児タカオと、メンバーは代ってもマサヨシはずっとドッジをしていた。このように一日中ボールを投げている日も多く、4月21日にはおやつ時に「ドッジやるもん、校庭に来てね」と聞きとれない位の小声で誘った。

野球は、打撃では空振りが多く守備も下手なマサヨシだが、5月に入ってから野球の仲間に入る日も多くなってきた。しかし、10日のようにサトル、ヒロトと同じ組の時は上機嫌でプレイするが、4日にはサトルとヒロトが同じ組では不利だと怒ってやめてしまう。小雨の降る14日、仕方なく室内で中当て、体育館でドッジボール、室内に戻ってミニ野球という一日に、マサヨシが体を動かさずにいられない日常が象徴されているようである。

次に、マサヨシの特徴的な言動を若干あげてみたい。4月に入会した妹テルコとは殆んど係わらないが、30日に切り紙をしているテルコに「切ってやるか」と声を掛け、5月20日にはおやつのお館を取る。5月17日のおやつ当番では買う物がなかなか決められない、18日にはおやつで呼ばれた時「逃げろ!」とマサタツに言われてサトルと逃げる、19日の虫採りでヒロユキが採った蛾を取る、実習生にボールを思いきりぶつける。20日には禁止されている体育館2階にワーカー(非)の注意を無視して上がる等である。

第2期 上昇発展期(5月下旬～7月24日)

5月下旬は夏を思わせる暑さで、31迄本格的な野球をしなかったが、ゲームウォッチが流行し出し、マサヨシもサトル、ヒデミツ、ヒロト達とする。24日はユウタとアツオのスポンジボール投げに入れてもらったり、アキカズ、ミチヨとワーカーの中当てにサトル、ヒロトと一緒に「入れて」と頼み、ヒデミツ、テツシと

グリコをして遊ぶ積極的な態度が見られた。25日は、ヒデミツ、ヒロト、サトル、N実習生とドッジボール、落し穴作り、その後も自転車乗り、リレーをし、28日にはトモテル他2人とトランプというように、ボール一点張りの遊びではなくなってきた。31日には大きな声で「野球やるもん!」と誘ったがサトルの指示によるものであった。この頃、マサヨシは盛んに「まあな」と乱発する。裸でおやつ席に着く、色鉛筆を投げて注意される等の行動がみられた。

6月もゲームウォッチは盛んで自分のを持ってくる。2日にゲームウォッチをワーカーに預ける。小人数のドッジや盗塁に入る時が多く、4日の工作で怪じゅうの王子作りに参加し糊でベタベタ貼る作業に興じる。一方、問題の行動が多い。、理由不明だが3日「そんな物知らねえの、変態!」と繰返し机の上を跳び回る、8～9日を無断欠席、16日は小学校の球技大会でアツオ達の級がズルをしたと罵る、翌日の野球は劣勢になり自分の組の子に喚き散らす、23日ヒロヤのめんこを2つ折りにし、Mクラブのめんこを自分のに混ぜる。しかし、N実習生とピンポンをしたり、22日のようにアサコとブランコに乗ったり、ワーカーとキャッチボールをした日は穏やかであった。26日の荒川土手のザリガニ釣りは休んだが、遅刻したからだと言う。

7月に入ると、木製バットの野球が復活しヒロト、ヒデミツ、サトル、ユウタやアツシ、テツシ達の仲間に入る。ワーカー(非)に電車路線図や電車を描いてもらったり、プロレスをやってもらい上機嫌の日もあった。キャンプファイヤーの掲示書きやキャンプの歌詞を指す役もワーカーの呼び掛けに応じた。

第3期 再編成期(7月26日～8月)

24日のキャンプファイヤーの次週3日間を休んだ29日朝、マサヨシはやたらと口数が多く荒々しくワーカー(非)を誘って野球をし落着く。そして、次の朝はバス停までワーカーを迎えに来て、他の子に報せに走る。マサイチ、マサツグ、ジュンジ、アキカズ、トモテル

のドッジにサトル、ヒデミツ、ヒロト達と一緒に入れてもらう。

8月になっても野球は盛んに行われ、木製バットでした日が17日間もあったが、マサヨシはその殆んどに参加した。夏休みのためゲームウォッチ持参の子が常について、マサヨシは、カズト、テツシ、ヒロト、サトル、トモテル、エイキのうち、いずれかと興じている時も多い。1日が長いので、絵描き、野球盤、挟み将棋等の室内遊びもよくやっていた。24日には、ヒデミツ、トモテル、アツオ、アイコのかくれんぼに入れてもらったり、26日は、ミチヨ、マサエ、ミワコ、ヒトエのくじ屋の客になるというように、女子との係わりも円滑であった。

他に、3日の手芸で象のぬいぐるみ作りに夢中になって殆んど仕上げたこと、19日は欠席届けがされているのに来て共同製作のペンキ描き、22日にN滝に行きプールにも入った、古いバスに乗ったことを嬉しそうにワーカーに報告したこと、テツシとの親しい関係が印象に残った。

第4期 成熟期(9月～12月)

9月1日始業式から帰ると直ぐに野球、午後からも野球をしたが、このように野球を連日行なう。4日はマサヨシ、ヒデミツ、ミチヨ組対ヒロト、ユウタ、ミワコ、テツシ組で、マサヨシ組は不利であったが文句を言わなかった。ビニールバットの野球を小人数で行う日も多く、バレーボール使用の野球をテツシと2人でしたり、ワーカーにキャッチボールの相手を頼む時もしばしばあった。しかし、8日にはサトル、ヒロト他2人の組に負けそうになると怒り出し自分の仲間にケチをつける。

17日にはワーカー(非)に絵を描いてと頼み、20日はN実習生に野球を誘う等要求が多いが、アサコの絵描きを手伝ったり、アサコとキヨの砂場遊びに加わり女子との交流が見られた。24日にはドッジをしていてテツシと大げんか、2人共理由を言わない。

10月初旬は、スポーツ大会の疲れからかマサヨシも室内遊びが多く、野球盤、くじ作り、くじ屋をする。徐々に小人数の野球や盗塁をするようになるが、22日はマサイチ、マサツグ、アキト、マサエ、アサコの珍しい組合せ、27日にもヒロト達にアサコも入っていた。学生が10人来た18日、野球中もギアギアと喚いたり、学生の背中にエルボーをする荒れ方であった。

11月1日に来た学生2人とはキャッチボールをし穏やかであったが、要求がいれられなかったからか学生の足をビニールバットで叩いた。2日と4日は無断で休んだが4日にスーパーマーケットに行っていた。5日は、ヒロユキ達と魚釣りごっこをしていた時はよいが、ミチヨの腹部をけったり、いきなりユウタにバレーボールを投げつけワーカーが注意してもニタニタしている。6日には8人でクッション投げをしている所に来て目茶苦茶相手構わずぶったりけったりし、8日にはマユコの耳をキューと引張り、アツオと組んだヒロト、タケトシ組と野球をするが終始アツオにガミガミ文句を言っていた。10、11日とワーカー(非)に電車の絵を描いてとせがみ、12日はワーカーにくっついておぶさる等ワーカーとの関係で自分の気持を安定させるような行動が見られる。5日以来3週間余り、また連日「先生、何に乗って来たの?」とワーカーのいずれかにきくようになっている。13日には久しぶりにヒロトとも迷路屋をしたが、1人で電車図鑑を見たり、トモテルとくじ屋、彼とは17日にはパチンコ屋、24、25、26日と迷路作りとくじ屋と2人で組む姿が見られる。少人数の野球は時折行われているが余り参加せず、15、16日にはヒロユキ、エイキ、テツシ等と厚紙を丸めた武器での戦争ごっこに入れてもらう。

マサヨシは、17日にパチンコ作り、26日は他の子がやったことのないおかず屋と自分のアイデアを出していた。しかし、29日には校庭の木に登り、ワーカーが呼ぶと「休んでいいってお母さんが言った」とおりて来ない。側には友人2人がいたが4日にスーパーで問題をおこしているのでワーカーは粘って連れてくる。

12月、18日迄クリスマス会の練習が連日行われるがマサヨシは合奏だけなので、ミニカーのレースやくじ屋をしたり、練習の空いている子と砂場で遊んだりしていた。

3日には、学校で女子の防災頭布とバンに画鋲を入れて泣かせて先生に凄く叱られ、帰ってくるなり合奏用楽器を滅茶苦茶叩きタンバリンを投げつける。8日はカーレースごっこを邪魔し、マユコの頭を叩き、ビニールバットでカヨミとミチエをぶつ。クリスマス会には、テツシと一緒に席を立てて出演者の側に行き、ワーカーが何度注意しても繰返した。20日にはテツシの自転車を無断借用して級友と何処かへ抜け出して行ってしまう。22日のおやつ当番は「俺、行かないよ」と30分もごねたが、ワーカーが粘り強く誘うとやっと行く気になった。

第5期 安定期(1月～3月)

冬休み明けの1月8日は土曜で休みに決めてあるのに参加、1年男子とブランコをしたり、サトル、ヒデミツ、カズト等のゲームにテツシ、ジュンジと一緒に入れてもらう。11日にはサトル、ヒロト、マサシと学校の倉庫にある石灰で線を描いて遊んでいたが、ヒロトに脚半分真白に掛けられて泣く。野球の組分けで、アツオとマサシに「自分もエラーするのに文句を言うから」と批判され、「言ったら止める」と譲歩した。

マサヨシは少人数の野球や独楽回しに入ったり、気候のせいか17、18、20日等テツシやワーカーとプロレスごっこをするが、22日はノブキとやり腹部をけり返し、側にいたヒロヤをけとばし、テツシにも向って行き、ケンイチの腹部にパンチ、エイキを押さえつけ、テツシとアキトシを倒し、ヒロヤとヒロユキを殴ってけとばす大荒れであった。24日はマサエの独楽を持って帰ってしまった。

26日以降は徐々に落ち着いてトモテルやヒデトとくじ屋と独楽回し、テツシ、トモテル達とゲームウォッチをして過す。なお、17日にはマサヨシが級友3人から

校庭で誘われていた所に行き、来るように言う嬉しそうにした。11月の態度と比べ、その変容に注目したい。

2月1日、前日からのトモテル、ヒデトの団扇作り、2日は妹と作りカヨミ達とも交流するが、やはりテツシ他等とのプロレスごっこをする日が多い。2日は体育館の2階に行ってはいけないと言ったワーカー(非)の足をけとばし、7日にはプロレス相手のマサツグに強烈なキック、21日にはヒロヤの首をねじるという乱暴な行動も目立つ。2月下旬になると三度当てやドッジ、天下ボール、悪漢をして活発に遊ぶ。

3月に入ると、カヨミ達の家ごっこに入ったり、ノブキ達ともプロレスをし、少人数の野球や盗塁にもよく参加する。22日はヒロト、ユウタと野球、24日のくじ屋はヒロトと組みヒデミツ、トモテルと交流し、ヒロトと近い関係を持つようになった。

(2) 処遇及び評価

処遇方針 1年目にワーカーとの関係で情緒的安定をみせる一方、シンジの子分的存在になることによって安定を得ていたのも、シンジの卒園で不安定なマサヨシに対等な友人関係をつくる。強い者には追従し弱い者には粗暴な言動で攻撃する行動パターン、物を盗る行為についても配慮して指導しなければならない。

処遇方法、評価 ワーカーは、マサヨシの粗暴な言動にきびしさだけではなく、やさしい態度で接し彼の立場を理解する。5月4日に野球の組分けが不利だと抜けないじて戻った時「みんながマサヨシ君の来るのを待っていたんだよ」と志村ワーカー、「ウソ! ホント?」と気を取り直す。5月15日、雨と泥で汚れた上着を脱ぎ「お母さんに電話して持って来てもらおうかな」と母親は仕事で外出中なのに田中の側に来て言った時、すぐに「貸してあげるよ」と応じる。6月16日、マサヨシと田中の会話を聞いて「余り変ったので吃驚した」と迎えにきたヒトエ母がいう程穏かな時がある。

夏休みに甲斐ワーカーの呼びかけで象のぬいぐるみ

を楽しそうに作り、途中でゲームを始めた時「象さんが早く作ってって言うてるよ」とワーカーが言うとうふっ、象さんが早く作ってだって」、針を通す時「僕チャン、これ苦手なの」と可愛い口調で話し、ワーカーに同調する。

野球をしている時のマサヨシの乱暴は度が過ぎてはいるが、サトルとヒロトが癒着し公正を欠いているので、マサヨシの正当性を認めてビニールバットの時も組分けの時からワーカーが見守る。一方、絵描き、キャッチボール、プロレスの相手にも応じる。

11月初旬に級友とスーパーマーケットで問題を起し、その後も級友に誘われるのでワーカーが毎日担当して校庭から連れてくる。母親と相談し母親が迎えに来ることになるが、直ぐに無断で来なくなってしまった。

1月17日より専任ワーカー2人が集中的に働きかけることにする。例えば21日、ヒロトが独楽回しでインチキばくやる、「お前は馬鹿だな」と言う、ボールを取りに行かせ「早くしろよ」と怒鳴る等の時に注意する。独楽回しで少しでも多人数の子と出来るように配慮し、信頼し合っているテツシと独楽を靴箱に入れる遊びを見てあげる。野球をやろうとした時にテツシを誘わせる等である。2月23日ドッジを誘った時、田中が「女の子が一杯手をあげてるじゃない。今日やさしく上手に誘えたね」と確認させると「今日は一杯いるぜ」と嬉しさを素直に表す。掃除嫌いなのに3月には2、3人分もする日が見られるようになった。

3. 3年目の成長過程

(1) 個人の主な動き

第1期 準備・開始期(4月)

3年生の在籍が多く(17名)、1年生の数が少ないため、前年度の活気をそのまま引きついだ感じの新学期で、多人数での野球が、早速繰り広げられる。マサヨシも必ず参加し、好んで野球を行う。野球では、仲間に受け入れられるようになっていたが、他の3年生が1年生に手を取り打ち方などを教える姿も見られる中

で、マサヨシは、1年のエラーにガミガミ言ったり、ワーカー(非)の審判に大声でわめいて文句を言うなど、全体の雰囲気にも悪影響を及ぼすことも多かった。おやつ前は、ビニールバット使用の野球、おやつ後は、木または、ビニールのバットでの野球がほぼ毎日行われたが必ず参加し、雨天の時は体育館で行うドッジボールにも必ず参加するほどの運動好きである。

ヒロトとは、学校の組変えがあり、分れてしまったが、初日の6日、2人で鉄棒をし、ゲームをし、漫画を描くなど、親しさを増している。

1年生にテニスボールの壁当てを得意になって見せたり、12日1年生ばかり3人と野球をしたり、他日、ブランコで2年3人組と遊んだり、3年生としてリーダーシップを取ろうという試みも見られる。

絵を描くなど、2年間で好きになったことを、一人で落着いて続けられるようになった(6日)。しかし、学校での不適応などのため攻撃的で、落着かない日も多く、ワーカーが、キャッチボール、プロレスの相手、絵描きの相手など一対一で接することも非常に多い。

1・2年生の時に比べ、問題行動は減ったものの、11日、2～3人の女の子の頭をボールでぶつ、14日、浄化槽の柵を志村ワーカーが止めるのも聞かず登り、有刺鉄線で顔に大怪我をするなど一時も目が離せないことも確かであった。怪我のため、20日まで休むことになる。

第2期 上昇発展期(5月～7月23日)

1期に引き続き、野球、ドッジボール共に活発に、連日行われ、マサヨシは必ずどちらにも加わった。6月17日、3年生の呼びかけで、野球チームが2つでき、ヒロトをリーダーとするロビンスチームのメンバーにマサヨシも加わった。以後、同チームメンバーのテツシ、ヒロヤ、ケンイチの5人でバッティングなどをする他、図鑑を見る、7月にはゲーム屋など他の遊びも一緒にすることが多く、その一員としての意識を高めていく。

5月19日には、3年生マサイチ、ヒロトそれに3年女子も加わり「Mクラブしんぶん」作りが始まったが、それには興味を示さず、また、アツオら3年男子と女子メンバーの交流も旧プレハブでのレストランごっこなどを通じて生まれていたが、それらの遊びに加わることもなく、殆んどスポーツ中心の生活である。

5月下旬に、ヒロト、ユウタ、アキトラと一緒に独楽回しをしていたのが、1年生にも波及し、1年生も技術を身につけた6月には一緒に楽しむことも多くなった。また、7月に入ると、ヒロトの考案したカーレースがはやり、マサヨシも仲間に入れてもらったり、ゲーム屋ではリーダーシップをとり、1年男子は彼を真似て盛んにやるようになった。

6月27日より見学実習が始まり、計12回学生が訪れたが、1、2年の時に見られたようないきなりボールを強くあてたり、キックをしたりという行動は見られなくなり、一緒に遊んでくれるよう頼むことが多くなった。

7月8日よりキャンプ・ファイヤーのための歌の練習を始めたが、練習の時、歌詞を棒で指す役割を積極的にかって出た。しかし、中旬頃からヒロト、マサイチ、ユウタが中心になってキャンプ・ファイヤーにやる劇の構想を練り始めても、興味を示さなかったが、結局はメンバーに加えてもらった。

1期に続き、殆んど毎日、ワーカーと一対一でキャッチボールをする日が続いていたが、七夕の頃から、徐々に頻度が少なくなっていく。少しの傷にも包帯をして欲しがり、ワーカーへの甘えを素直に表現するようになる。5月19日の野球では、今まで互角のヒロトとマサイチで組分けじゃんけんが行われていたが、この日はヒロト、マサヨシでじゃんけんをし、実力の向上が見られる。6月10日には2年3人組とボール投げをした後、楽しそうに歌う姿も見られた。しかし、6月には学校に勝手に入ったり、1年生を殴ることもあった。

第3期 再編成期（キャンプ・ファイヤー以後の小学校の夏休み期間）

夏休みの間、無断で休むことも多かったが、参加した日は、必ず野球をした。ヒロト、ヒロヤ、テツシ、ケンイチとやるが多かった。

学校のプールがほぼ毎日開かれ、参加するように推められていたが、結膜炎の治療をしていないため参加できず、暑い日を過すため、イライラしていることも多かった。8月5日の記録に「マサヨシがいなくて静かだった。昨日はうるさかった」と記されているように、全体の雰囲気は大いに左右していた。

暑いため室内遊びも活発な時期であるが、好んでゲーム屋をやった。ヨシキ、ジュンジとやったり、一人でやり、客としてワーカーやケンイチが参加する時もあった。4日には、昨年4月に入会した妹のテルコ、ミチエ、キヨとかくれんぼをした。妹には常時殆んど無関心で、クラブで遊ぶのは珍しかった。一人で折紙をしているところにジュンジも加わり、ワーカーとミチエ、マチコも加わるという日もあり、女子と遊んだり、手先を使う創作活動もみられるようになる。

しかし、7月26日、おやつ当番を自ら希望する積極性もみられ、長い巻きゲームをじっくり落着いて作る日もあったり、共同製作の彫金を他のメンバーと一緒に取り組むなど成長が見られる反面、週明けはいつも攻撃的で、しゃべり方も荒々しく、ワーカーにも反抗的である。1日の月曜日はヒデミツと喧嘩、その後ヒロトとも喧嘩をする。7月29日には、ヒロヤのカードを盗ったり、3日には屋根に登るなどの行動もあった。

第4期 成熟期（9月～12月）

野球が再び活発になり、11月まではほぼ毎日行われマサヨシも参加したが、同チームのヒロト、テツシ、ヒロヤ、ケンイチが野球を主として、その他の遊びでも一層親しさを増していく中で、マサヨシは取り残されていく。11月28日ヒロトたち6人と壁野球をやっていた時、2年ケンイチがエラーするとなくって泣かせた。

皆んな口々にマサヨシに「自分だってエラーするくせに」と文句を言う。マサヨシの余りの横暴さに日頃の皆んなの怒りが爆発した出来事で、2学期のメンバーの成長とマサヨシのグループにおける存在をよく表している。

夏休み期間、比較的安定していたが、再び学校が始まると、勉学の遅れから遅くまで残り勉強のため残されたり、同クラスの強い子に笛の中に絵の具を詰められたり様々な学校生活の不適應を引きづって来た。そのため、女の子の使っているボールをいきなり取ったり、見学実習の学生に「早く帰れ!」とわめいたり落着かない日も多かった。

9月29日、志村ワーカーが退職することになる。父母への挨拶状を皆んなに配ったが、マサヨシは「渡したかったら、ついてこい」と言って受けとらなかった。マサヨシの家を訪れるとはしゃぎ、箱の中から折紙をくれた。初めて築かれてきた大人との信頼関係を失うという初めての経験を戸惑いながら、受入れていった。

ワーカーとの関係は、絵を描いてとせがんでも電車の枠組みだけ描いてあげるとか、ピンポン、キャッチボールの相手を短時間することで満足するようになった。

クリスマス会の合奏には、大太鼓担当を希望するほど意欲をみせていたが、希望者が4名だったので、テストをして、結局彼は鉄琴をやることとなる。始めは渋々練習し、メチャクチャにバチで叩いていたが、根気よく教え、日が近づく「もう1度やる」とすすんでやる意欲をみせた。

全般的には、野球、壁当て、12月にはサッカーをして安定して遊べた。

第5期 安定期（1月～3月）

本格的な寒さの季節となり、誰も殆んど野球をやらなくなる。2人～数人でのサッカー練習が盛んに行われていたが、マサヨシは全くと言うほどやらなかった。

1月末から3月中旬まで、雪と共にある生活であり、

多くの子が雪で遊んだが、雪には興味を示さなかった。栄養不足などで寒さに向かう体力がなかったのだろう。しかし、1月30日、2月7日には2チームに分かれてサッカーの試合が長時間行われたが、その時は、自然にメンバーに加わっていた。電車、バスにずっと興味を持っていたが、ワーカーの励まし、受容的態度の中で、この時期には電車の絵を描く力はかなり上達していた。電車の絵を何枚も描き、それを売る店屋ごっこを、ある日は、コウゾウと、ある日はマサツグ、ある日はトモテルと組んでやった。店屋ごっこでは、客になる他のメンバーとの交流もでき、安定して遊べ、トラブルをおこすことも殆んどなかった。寒いため、2階でもプロレスごっこが盛んであったが、7～10人位の多人数と特に攻撃的にすることなく、身体を触れ合って遊ぶことができた。

しかし、暫く途絶えていた新聞のお別れ号作りの声が上がし、多くの3年生が取り組むが、マサヨシは興味を示さず、文化的活動は最後まで苦手であった。

3月後半、寒さも緩み、男子メンバー多人数でのサッカーが長時間続けられ、マサヨシもすっかり、グループのメンバーとしてプレイし、これは3年間の成長を表わすものであった。

(2) 処遇及び評価

処遇方針 2年間の成長は明らかであったが、他の3年生に比べすべての面で数段劣っていた。3年生からは対等にみられていないし、2年生からも軽蔑されてもいた。1年、2年前半までは、ワーカーとの関係を基礎に目覚ましい成長を遂げたのだが、次の段階で仲間との関係で壁に当たっていた。彼の情緒的な安定を計ると共に、新たな段階における人間関係の構築が課題であった。そのためには、マサヨシ個人に対しての働きかけと同時に、メンバーへの働きかけも必要であった。また、3年生としての自覚、下級生に対して教えたり、やさしくしたり、得意なことでリーダーシップをとれるような援助が求められていた。

処遇方法・評価 前庭での野球などにマサヨシを入れるのを嫌がるが多かった。ワーカーと一緒にメンバーの嫌がる理由を聞き、マサヨシが皆んなに「どならない」「いばつたらやめさせてもいい」等を約束し、入るというやり方を続けた。余りに勝負にこだわり、自チームのエラーをしつこく罵るのが嫌がられ、そのためワーカーが中に入り注意することもしばしばであった。

キャッチボール、バッティング相手、プロレスとワーカーへの要求は1～4期変わらず多いが、受容的態度で臨みながら、徐々に係わる時間を減らし、友人と遊べるように移行していった。

6月には独楽回し、7、8月にはゲーム屋ごっこと彼の得意な分野では、安定してリーダーシップがとれた。ワーカーは、一緒に独楽回しに加わり、ゲーム屋には1年生を連れて客になるなどの援助を続けた。

6月にロビンズのメンバーに加えられ、年間を通じこの5人が友人関係の基礎となった。

4期後半、野球などの遊びに殆んどスムーズに入れてもらえるようになってきた頃と前後して、おやつの時静かにならないと「しずかにしろ」と3年生らしい言動も見られる。2月には、得意な電車の絵を売る店屋、1月後半から3月末までサッカーを長時間するなど安定して遊べた。貧困、親の養育態度など家庭の問題は解決されず、問題は残っているが3年間の成長は明らかであった。

Ⅳ. グループ・プロセスと 個人の成長 —事例B—

1. 1年目の成長過程

(1) 個人の主な動き

第1期 準備・開始期（4月初旬～5月中旬）

他の1年生20名と入会。初日、キョロキョロと室内を見回している。翌7日も、一人でウロウロしている。

11日、14日と腹痛を訴え、入学と新しい集団での生活にかなり緊張しているのが伺える。他の1年生が、2、3人づつで絵を描いたり、ゲームなどをしたりしている中で、1人で本を読んでいることが多い。他の地域より引越してきたため同じ保育園出身の子はいなかった。非常勤として就任した甲斐ワーカーも「ヒロト君は興味があった」と述べている。9日、影踏み、11日折紙のバクバク人形作りをワーカーは誘ったがやらなかった。11日、エイキ、ヒロユキとゲーム、スベリ台などで遊んだり、1年生8人で中当てをしているところに入る。すぐ止めてしまったが、1年生同志の交流が見られるようになる。同じ日、1年生3名も加わり10名で野球が行われているが興味を示さない。15日、中当て、16日には相撲、プロレスと身体を動かすようになる。初日より1年生だけのバッティングはマサイチラを中心に連日行われていたが、皆んなに遅れること2週間、18日にやっとワーカーの誘いで野球をした。幼児っぽい身体のごなしである。22日、初めて2、3年生の野球に加わった。以後、毎日野球をするようになる。24日「……積極的に入ってくる。普段気の抜けたような表情をしているヒロトも、この時は目の色が違う」と志村ワーカーが記しているように変化を見せ始める。28日、エイキ、トモテルと言ひ争いワーカー泣く。けんかをしたのも初めて、泣いたのも初めてである。

4月下旬より盛んになっていたドッジボールに、5月2日に初めて入った。6日、マサタツの作ったパチンコをマサヨシが壊している時、「おまえ、いいのか、それ3年生のお兄ちゃんのだよ、やめろよ」と言った。ドッジボールが上手になるためワーカー、マサヨシたちと毎日練習する日が続き、7日にはすでに明らかな上達ぶりであった。リレー、野球、ドッジボールに好んで参加するようになる。13日、公園で他の1年生は砂場での泥遊びに興じるが、手を汚すのに抵抗があるらしく、口を出すだけであった。

第2期 上昇発展期（5月下旬～7月25日）

19日の動きは、レール遊び、シーソー、鉄棒、スベリ台、再びレール遊び、おやつ後は、本読み、ゲーム、校庭へ出る、シャボン玉、独楽と多彩で、かかわったメンバーは2、3年生15人であった。独楽では初めて女子メンバーとの係わりである。25日から独楽がはやる。26日他の1年生と同様、やっと1回回った。それ以後、毎日他のメンバーと独楽をする日が続く。同じマンションのトモテルと急速に親しくなり、シーソー、砂場で2人で遊ぶことが多くなる。27日のおばけ屋敷ごっこは大はやりであったが、新しい遊びにぱっととびつくことはない。6月5日の「豆を食べる鳩」の工作指導に、側で見ているのだが、志村ワーカーがいくら勧めても決してとり掛ろうとしなかった。7、8日長い時間プロレスをする。他のメンバーは、途中2日とも裸になったが、ヒロトは脱がなかった。しかし、12日小糠雨の中、マサタツと蝸牛採りに熱中。虫採りに興じたのは初めてのことである。16日は、初めてのおやつ当番であった。志村ワーカーによれば「ヒロトはひどく緊張していたようでボーッとしていた。……緊張のあまりか、団地の中を片方靴が脱げているのに気づかずに歩いていた。静かにしてくださいと言う時にも、2、3秒ボーッとになっていた」という様子である。6月下旬、ドッジ、リレーに積極的に加わるようになるが、よく途中で抜ける。体力がないのだろう。26日、専任ワーカーの推めもあって、意欲的にポップアップカードの工作に加わり、3種も作った。27日には、水を口に入れてブーッと吹きかけっこをユウタとする。一皮むけたようだと言われている。

7月13日より、25日のキャンプ・ファイヤーに向けて、1年男子有志で「虫の冒険」の劇の練習を連日する。友人が入るよう誘うが、やろうかなと何度も迷う。21日には、ワーカーに「まだ、やらないよ」、24日マサイチが誘うと「まだやらない」と言う。いよいよ当日、あと1時間で始まるという時に、実習生に「カマキリ作らなくちゃ」と言い作る。なかなか決断できない彼

をよく表わしている。

第3期 再編成期（7月26日～8月）

7月28日から31日まで、キャンプのため欠席。トモテルが「キャンプにずっと行って帰ってこないかもしれない」と不安を表わすほど、2人の仲は深まっていた。8月1日久しぶりに参加。新たに購入したパチンコゲームを他のメンバーは入れ替っていたが、ヒロトは一日中やっていた。8月前半、共同製作の彫金はよくやった。しかし、連日大賑わいのビニールプール遊びには一日も参加しなかった。5日、ワーカーが足だけ入って見たらの誘いには、グズグズ迷っていて、後でいきなり靴のまま入ってしまう有様だった。しかし、翌日は、すぐ近づき足だけ入り、大喜び。ユウタが上半身裸になり「おまえもぬげよ!」と言ったが脱がなかった。中旬にかけて、多人数の動物ごっこ、自転車乗り、ドッジと活発であるが、それには参加せず本に熱中し、後半になって動き出すという生活パターンの日が多かった。一日中、漫画を読んでいる日もよくあった。

18日、志村ワーカーの熱心な推めで初めて絵を描いた。紙を前にし、「やっぱりやめた」と迷い、ワーカーに「だって、おれ自信ないだもん」と言う。描いた絵は、円形、電車、舟の3枚で、大変上手であった。後半、トモテルが欠席の時に、運動好きでないヒロユキ、エイキと急速に仲良しになり、室内で遊ぶことが多い。25日、トモテルが野球に入っているのを見つけ、口をあけて40分近く立っていた。26日、紙ヒコーキ作り、28、29日、空箱のカニ作り、割りばしの塔作りと意欲的。後半、野球が再び盛んになっていた。とうとう29日、多人数の野球に初めて加わった。

第4期 成熟期（9月～12月）

1日から5日まで連日、多人数でのリレーが続いた。1日に甲斐ワーカーがすすめ、皆んなも誘うが逃げてしまったが、2日、5日、その後、リレーには時々加

わった。ビニールバットでの野球は連日盛んであったが、ヒロトは工作、独楽回し等室内にすることが多い。独楽回しが完全にマスターできた9日には、ユウタらと一日中独楽回しに熱中した。これ以後、毎日いろいろなメンバーと独楽回しを楽しむ。11日には、下校後はすぐ、マサヨシと独楽回し。「2人で遊ぶなんて」と書かれている程、全く異質の組合せであった。10日、割りばし鉄砲を作り始めた子がいると、すぐユウタと寄ってきて作り始める。早い反応を示すようになる。しかし、12日、0児童館の子ども祭りに招待され、全員で出かけた時、館内はぎっしりの人であったが、金券を貰った子どもたちは、目を輝かせ手作りの作品を買ったが、ヒロトのみ全く何も買わなかった。21日、22日と絵を描く。これ以後も時々描くようになった。

9月下旬は、スポーツ大会に向けてのドッジボールの練習、10月にはビニールバットでの少人数の野球、泥磔、相撲、レスリング、11月には大流行になったガンダムごっこと活動的に過すようになる。11月12日、トモテルらと家作り、11人でガンダムごっこ、マサヨシらと野球、おやつ後もガンダムごっこと一日活動的に過す日も見られる。9月にはトンボに「うるせえ」と怒鳴っていたが、10月中旬から虫採りをしたり、31日には砂場で山やトンネルを作って遊ぶ、12月3日には砂場で落し穴作りと手を汚しての遊びをするようになる。9月に入り、家ごっこをするようになり、10月8日もトモテルらとした。マサヨシに連れられアツオに「そうだよ、おまえぶっころしてやる」と言い、アツオがヒロトに馬乗りになりヒロト泣く。友人とぶつかり合ってけんかになり、泣くというのは初めての体験であり、それだけ交友関係が広がり、それ故に摩擦も必然的に生じるのであった。

10月にはトモテルと同じようにユウタとも親しくなり、10月、11月にはマサヨシと親しさを増し、「ヒロト」と名前を呼び、絵を描いたり、野球を一緒にしたりする。交友関係が広がると共に、10月16日には、マサタツ、マサヨシと一緒に学校の屋根に登ったり、30

日サトルと一緒に「トモテルのパンツはオッパイパンツ」といじめたり、11月12日には、野球をしている時、マサヨシと一緒にトモテルの打ち方を笑う等の行動も見られるようになる。「ここのところ変にメチャクチャ言う、5時になってもトモテルと2人でなかなか帰らず『ありがとうございます』とふざける」と記されているが、友人とも遊べるようになり、集団への帰属感も高められ、その喜びの気持を実によく現している。16日、田中ワーカーに自分から「マサヨシはいつも100点なんだよ」（真偽は不明）と自分から話しかけワーカーへの信頼感も高まってきている。21日には「ここのところ、すごく変った感じ」と変化が記されている。

12月に入り、トモテル、マサヨシの3人でウルトラマンごっこ、高鬼などをして遊ぶ日が多い。しかし、クリスマス会に向けての合奏、劇の練習で騒然としている中、最低限の参加で合奏のタンバリンをやることにして、2階で1人で本を読んでいた、トモテルと砂場にいたりする。劇には誘ってものってこなかった。

第5期 安定期（1月～3月）

8日「ボサーとしていることが多い。一学期の頃を思わせる。本を読んでいることも多い。エイキらの家ごっこの側でデブのやつ、青い洋服を着ているやつとケチをつける」と記されているように、暮の欠席を含め2週間のブランクで、再び友人との係わりが上手くできなくなる。しかし、翌9日にはガンダム人形でエイキ、マサヨシらと遊ぶ、すぐに2学期終りの感じに戻ってきた。

4期までは、1年生同志の交流が中心であったが、2、3年生との交流、また、新たに1年ヒデトとの関係も生まれた。いつも威張っていた3年シンジを避けていたが、1月16日に一日中一緒に楽しく過したのをきっかけに、一緒に遊ぶ日が徐々に多くなる。2月6日、シンジが誘いサッカーをしたが「……初めからヒロトが入ったのは、ここ3週間位、シンジに追従して

いるとはいえ、新しい傾向だ」と記されていることでも明らかである。

1月はあまり活動的には過さなかったが、2月にはサッカーをよくやり、3月には、悪漢、ドッチ、野球にと多人数で活動的に過す日が多くなる。学校で絵を表彰され、絵を描く姿もよく見られるようになる。

2月16日、サトルらと一緒にエイキいじめ、3月10日はシンジと一日中一緒に過し、5時になり帰るよう言った甲斐ワーカーに「メガネザル!」「フーン」「あっそう」「よかったね」と馬鹿にしたり、力を得た行動も見られる。

全般的には、5期らしい活気があり、落ち着いた雰囲気、波に自然に、とけこんでいたといえよう。

(2) 処遇及び評価

処遇方針 入会時の面接で母親は、「本当にこの子ったら玉三郎みたい。男の子らしくなく、気持ちが悪くなっちゃう」「保育園では、じっと動かないで本ばかり読んでいる。家でも本を読んでいる。私にはつかかってくる。素直でない。運動するようにしてほしい」と話している。野球にも、ドッチボールにも他の1年生より少しずれて参加をする。絵を描かないことにも端的に現われているように、自信のないことには手を出さないというのが、入会当初の姿である。彼には一つ年長の兄がいるが、能力もあり、性格も明るく、積極的で、大人に対してもソツがない。優秀な母親に似ている兄は、母親から理解されやすく、弟はそうではない。また、何をやっても兄を追い越すことができないので、劣等感を感じる位なら、最初から何もしないという消極的な態度を身につけていた。一人で本を読んでいる、口を開けてボーとしている時が多かった。充分な能力の持ち主であるため、自分の力を正当に評価できるよう自信をつけさせることが第一であった。それと共に、保育園では希薄な人間関係で過してきたが、友人関係の中での人間的成長を目指した。

処遇方法・評価 折をみて野球をやってみるように声

をかけ続けていたが無理強いはず、機が熟すのを待った。今まで運動をしたことがなく体力もなかったので、参加も短い時間であったが、体力の向上を待った。ひ弱さは4月末弁当を一時間も係って食べたことから明らかであった。

野球、キャンプファイヤーの劇、プール遊び、絵描き、リレー、工作等どれもなかなか手を出そうとしなかったが、どのワーカーも根気よく、焦らずすすめた。能力があることは明らかであったため自分の力を彼が正当に評価できるようにしていった。知的にはすぐれていたが、身体を動かす快適さも身につけ、抑圧された精神も解放され、心身共にバランスよく発達してほしかったからである。また、友人との係わり、親密な友人関係の中で身につける人間的成長のためにも種々の場面で援助をした。後半には、今までの人間関係が希薄であったため、強い子と一緒になるといきなり威張る、乱暴をするなど短絡的に力を身につけようとした時も適切な指導が必要であった。

2. 2年目の成長過程

(1) 個人の主な動き

第1期 準備・開始期（4月初旬～5月中旬）

新学年になり1年生を迎えても、ヒロトは自分から誘うことはなかったが、4月9日には同学年のマサイチと一緒に1年のマサシ、アキトとデメを始め、3年のサトル、2年のマサヨシ、さらに3年のヒデミツ、カズト、2年のユウタ、卒園児のヤスヨリも「入れて」と言うのと直ぐ入れた。4月半ば位迄、サトル、ヒデミツ、カズト、マサイチ、マサヨシ、時には3年のアキカズやミワコも入れて11人になった時もあるが、盗塁を好んでした。16日には、珍しく虫採りにヒデミツと連れ立って団地に行ったり、二重の筒を振ってとばし合っているアキトシ、ジュンヤ、ヒデト達の敵役としてトモテルと参加する等遊びの範囲が広がってきた。20日にも女子2人を入れた12人でドッチボール、ゲームウォッチをする時もあるがよく動く。23日にはラン

ドセルを置き忘れて家に帰り、取りに来て「盗塁一杯やって疲れちゃった」と照れ臭そうにワーカーに言い、14日に目覚し時計の音をきいてワーカーに報せたが今迄なかったワーカーへの親しさの表現であった。

5月に入っても相変わらず、野球、ドッチには必ず参加していて、特に野球の投手振りも様になり打撃もライナーのいい当りと1年間の成果をみせつけている。漫画を見ている時もあるが運動することが多く、例えば、18日はテツシ、ヒデミツ、アキトと野球、ヒデミツ、ユウタ等とバスケットごっこ、アツオ、サトル、アキトと天下ボールと全く室内遊びをしていない。

問題なのは、5月11日マサヨシに「野球やろう」と言い張り、入れてほしがっているヒデミツとサトルを「下手だから」と入れなかったことで、自己主張できるようになったが他人を見下す感じがすることである。しかし、母親がいるので休むユウタの話を聞いて「俺なら野球とかドッチやるから来る」とワーカーに言い、自らの変ぼう振りを語っている。

第2期 上昇発展期（5月下旬～7月24日）

5月下旬も、ゲームウォッチをする時もしばしばあるが、運動に熱中する。ヒデミツやサトル、マサヨシ達とドッチをしたり、リレーで走り回って過す。少人数の野球や、マサヨシと打撃練習もする。28日は野球もアツオ、ヒデト、セイイチ、アキカズという珍しい仲間とも行い、カズト、ヒデトとゲームをするという広い係わりを持つ。今迄避けていたヤスヨリともサッカーをする。31日初めて買ってもらったゲームウォッチを持ってきて「ゲームやりたくない？」とマサシ、サトルに声を掛けて貸して上げた。前庭でヤスヨリとサッカーをしヒロトがキックした真新しいボールが溝に落ち、ワーカーが拾うように言ってもぐずぐずしていたのは、やはり彼らしいという印象であった。ヤスヨリが走って拾ってくるが、ヒロトは無表情であった。

6月10日に小学校の球技大会があった為か7日にヒデミツ、サトル、マサヨシ、マサイチ、ヒデト、トモ

テル、ミワコ、ユリとドッチをやったのが珍しい位で、2～3人で野球をする時が多い。球技大会の日、アツオ、ヒロユキの級がズルをしたとワーカーに訴え、マサヨシと一緒にアツオ達をののしる。その後、マサタツが来たら一緒に野球をしていたマサヨシがやめたと泣きそうな顔をしてワーカーを呼ぶ。中、下旬とも野球、リレー、三度当て、ピンポンと活発で、14、17日はマサヨシが不利だと文句を言うと「組がえしよう」と言う。しかし、23、28日にサトルと共に好きな女の子の名前をユウタに言っていじめる。

7月に入っても相変わらず毎日のように野球をするが、ワーカーが係わらないとサトルと組んでいるのが目立つ。他にも、サッカー、悪漢、めっちゃ当てで走り回る一方、ゲームウォッチ、野球盤、虫採り、テレビを見る等で運動の合間を埋めていた。

目についた行動は、七夕の笹買い、飾りつけをワーカーが呼び掛けてもものならないこと、「ねえ、僕野球のクラブに入ったんだよ」とワーカーに声をかけたこと、17日に野球の下手なケンイチ、ヒロヤと野球をしたことであり、ヒロトのマイペース振り、ワーカーへの親しさ、交友の拡がりを端的に示している。

第3期 再編成期（7月26日～8月）

週初めの27～29日は家族旅行のため休み、30日に来たヒロトは、テツシ、カズトとゲーム、テツシ、ヒデミツとゴザを体に巻く遊び、サトル、マサヨシ達のドッチに入らず別行動をする。一日中文句ばかり言って、週1日来るN実習生にも「お前は休むから入れてやらない」と言う。

8月も自然教室に行き1週間休んで、9日から参加、共同製作の壁画として看板に絵を描く作業は見えて手を出さず、ワーカー（非）がすすめるとゴチャゴチャと変な絵を描き、10日以降殆んど描かず色塗りに応じた日があった程度である。暑いのに野球にはやる気を見せ、合間に野球盤やゲームウォッチをする日が8月一杯続いた。19日などは、サトル、ヒデミツ、カズト

達9人と盗塁、トモテル達とジャングルジム、砂遊び、その後13人で野球と一日中外遊びで過している。21日はヒデミツ、テツシと蟬採り、24日にはヒデミツ、マサヨシ、アイコ達7人とかくれんぼをするなど子供らしい遊びもしている。

問題な行動としては、10日の野球でサトルと組み非常に攻撃的になり「デブ！デブ！」をヒデミツにはやしたて、17日にはヒデミツに「デブ猫、来いよ」、ユウタに「〇〇ラーメン」とサトルと口を揃え、テツシにも「すいか割れなかったら弁償だからな」と口が悪かった。23日もヒデミツが入れてと言っても入れず、ユウタにゲームウォッチの音を聞かせてあげない。25日、ミワコの兄が野球に入っているとマサヨシが呼んでも入らず、ミワコの兄が帰った後の野球を11人ですがユウタに「たま、持って来い」と威張る。

26日はサトルが休みで、ヒデミツ、ユウタ、マサヨシを含む12人で野球をしたが、非常に友好的な雰囲気終始した。本読みが好きで一緒にいる機会の多いテツシと親しくなった感じを受けるが、やはりサトルが休みの30日はヒデミツとぐっと仲良しに見えた。

第4期 成熟期（9月～12月）

9月中旬まで、8月の遊びの流れであった野球を日に2～3回と、野球盤という傾向が続いた。時々ゲームウォッチをしたり、常時Mクラブでは絵を描かないヒロトだが、7日にはヒデミツ、ユウタ、アキカズ、ミチヨ、ミワコと並んで絵を描く姿が珍しく印象的であった。1日には、ワーカーが審判についたこともあり卒園児オクノ、ミワコ、ミチヨを含む18人で野球を楽しんだが、休んでいたサトルが参加した2日には彼とヒロトが組んでテツシを入れるのは厭だと言い、テツシを汚いと言ったのでワーカーが叱っていると他の子がやめてしまう。3、4日はチーム分けの段階から専任ワーカーが見守ったのでトラブルはないが、8日ワーカー（非）が見ていたがマサヨシが自チームが負けてくるとケチをつけ、サトルと組んでいたヒロトは

マサシの足をけとばす。20日の野球中、ヒロトは「マサヨシが打てなかったらパンツ脱がしてやろうぜ」とサトルに声をかけ同意を求めた。

21日から10月1日のスポーツ大会に備えてドッジボールの練習を全員で行なうことをワーカーが話したが、ヒロト達はベースを並べてしまう。ワーカーに呼ばれ渋々応じるが、やり始めると熱中した。22日の野球ではヒデミツを野球に入れたがらないが、ワーカーがヒデミツ自身も頼むよう言うのを聞いて妥協して入れる。24日、エイキがひき蛙を持っていると「こいつ、ヒキ蛙殺せて言っているのに殺さねえの」とワーカー(非)に言い、エイキを怒らせた。

10月1日のスポーツ大会は、第1試合に勝ち第2試合に負けたが、ヒロトは精一杯頑張っていた。花笠音頭のため両手首にお花をつけるようワーカーが言うと、グズグズしてサトルが着けるのを見て思い切った様子でつける。スポーツ大会疲れか、2日は自分の数字バズルをミチヨ、マサエ、ヒロユキに気持よく貸し、テツシ、ワーカーと雑談、エイキとヒロユキの家に入り、1年男子と野球盤と落着いていた。6日にはユウタ、アキカズ等とクッション投げを無邪気にしたが、野球仲間のマサシの眼をける。7、14日には実習生をかばい、遊びの規則を教え、8日には「めいろ」という店をユウタと出した。おやつの時にタケトシとアキトが両側に寄りそって腰掛ける。野球もよくしたが、18、25、27日はサトルが出席しているにもかかわらず彼抜き野球となる。迷路屋、野球盤も相変わらずするが、ユウタと組んでいるのが目立った。25日には、野球盤をしていて「ユウタに初めて負けた」とワーカーに話しにきたが、ユウタへの友情の芽生えが感じられた。

11月になると、前庭で少人数の野球や盗塁ごっこ、野球盤、割箸鉄砲作り、本読み、迷路描き、鉄棒、トランプ占いという具合に遊びの巾が広がった。野球が下火になると平行して、サトルと別行動の場合が多くなった。12日には「今日初めて逆上りができた」とワーカー(非)に報告しているが寒い中連日根気よく練習

していた。目新しい木刀作りやミニカーのレースにも積極的であった。迷路描きが巧みなヒロトは店屋より作る方に熱心であった。

問題なのは、11日サトル達と野球を始める際にマサシをバットで叩いて球をとりに行かせたこと。15日にアキトとタケトシの掴み合いの喧嘩をアキカズと止めたのは彼の指導性の成長を物語るものとして強く印象に残る。

12月に入り、18日のクリスマス会にやる劇の相談を3日になってサトル、アキカズ、ヒデミツ、ユウタ、テツシと始める。6日から「ガンダム」の台本作りに着手するが、漫画、ミニカー、泥警、鉄棒等をして進まない。9日にはワーカー(非)と台本の見直しをしている内にヒロト以外の子がいなくなり、彼は呆然とする。ヒロトだけ当日までペープサートを作らず、当日ワーカーが交替してやっと作らせた。

第5期 安定期(1月～3月)

1月は、流行していた迷路屋も下火で独楽回しが主流になる。時折行方不明の野球にも入ろうとせず、ドラキュラゲームや本、漫画を読む時が多く、22日は折紙の手裏剣を22個も作る。17日に、おやつ当番で一緒だったワーカーに「少年少女新聞」をとっていると見せる。時々5時半迄残ってトモテルと独楽回し、ユウタと仲良しなもの目立つ。

2月にも、独楽、ドラキュラゲーム、ゲームウォッチをするが、プロレス、泥警、鉄棒とやや活動的になる。17日にはマサシ達と雪合戦、21日にはサトル、マサヨシ、マサイチを泥警に誘う。23日12人、25日19人でドッジで大いに動き回る。サトルとゲーム作りをしていた4日、「…ユウタを殺す…」等と厭味を言っている。サトルと一緒にの時、ユウタに意地悪である。

3月になっても同じ傾向の遊び方であるが、下旬には鉄棒をする子が多く、ヒロトもよくする。23日ヒロトはサトル、ヒデミツ、マサヨシ等11人で盗塁、次いで久し振りに多人数12人で野球をし春近しを思わせた。

25日のお別れ会に向けて自主的に劇、手品等の練習が行われたが、ヒロトは何もやろうとしなかった。時折遊びに来ていた兄と珍しくドッチやゲームをするようになる。

(2) 処遇及び評価

処遇方針 ヒロトは野球が上手くなり自信を持つが、サトルと一緒にいると他の子に攻撃的な言動が目立つので、2年ではあるが本当の自信と判断力を身につけリーダーシップを発揮してほしい。さらに、他の子を見下す態度が目につき、一方、決断力がなくグズグズした面がある。

処遇方法、評価 4月20日に訪れた母が「家にいる時と全く違う、信じられない」という程活動的。学校では写生会、読書感想文で賞をとるが担任教師から性格に問題があると言われるように、他者や周りの物について認識が足りないで、そのことをヒロトが自覚できるように働きかける。「その図鑑ずっと前に買ったのよ」「え、前からシャベル玄関に置いてあったよ」「バカなんて言われたら厭な気持ちがするの、分らない？」と言った具合である。

野球好きなヒロトなので、サトルと同チームになってルールの都合よい解釈を押し通したり、下手だからかかったりしてのトラブルも多いので、ビニールバットの時でもワーカーが審判や見物人になって見守る。組分けも、サトルとヒロシは特に上手なのに何時も同じチームになるのは相手が不利になる、そんな事して勝って嬉しいか等話して納得させる。

学校の球技大会で先生がズルを注意しなかったと訴える、野球クラブに入ったと報告する、1年に「泣かずぞ」と言ったのを注意すると「2年になるのを待っていた」と言い返す等、ワーカーとの距離もぐっと近くなる。クリスマスの劇をジャンケンで決める時「いやだ」と言い、ワーカーに「前にもそういうことあったね」と言われると「ウソー、よしやってやる」と思い切る。

おやつ当番の時店でグズグズしていると非常勤ワーカーが言うので、須之内が一緒に行き歩きながら「お母さん、あの服買う時直ぐ決めた?」「うん、直ぐ決めたよ」「お父さんは?」「おそい」「お父さんに似たのかな」と言う。その日ヒロトは直ぐ決めたのだった。

3. 3年目の成長過程

(1) 個人の主な動き

第1期 準備・開始期(4月)

3年生となり組み換えがあり、マサヨシとクラスは別になったが、6日は鉄棒、絵かきと2人だけで過す時間も長く、親しさが深まった様子。7日、昼食時、馬鹿と言う。人に馬鹿と言うのが目立つ。10名の1年生を迎えたが、1年生に全く興味を示さない。

3年生が多いため、1、2年生を含めての多人数での野球が、おやつ前は前庭でビニールバットを使用し行われ、おやつ後は、校庭で木のバットを使用して行うというパターンが4月初より繰上げられる。日により、ドッチボール、悪漢を行う日もあり、雨天の時は、体育館を借りてのドッチボールである。いずれにも、ヒロトは当初より加わり、すっかり運動好きとなっているのが伺える。野球ではヒロト、ドッチボールではマサイチと、2人が運動においてリーダーシップをとる。しかし、おやつの時皆んなを誘うのは、社交的なマサイチである。ユウタ、トモテルと3人、またはマサヨシも加わり4人でバッティングをする日も多く、特にユウタ、トモテルと親しさを増していく。20日小雨の中、特訓と言ってユウタ、トモテルと練習を続けたのは、寒がりで、用心深いヒロトには、画期的な行動であった。4月下旬頃から虫採りをするようになり、子どもらしい素直な興味を示すようになる。マサイチ、ユウタは、3年女子メンバーと学校ごっこくじ屋などで交流があるが、ヒロトは女子とは自からは全く係わらない。漫画好きで、一人で読んでいる時も多い。

第2期 上昇発展期（5月～7月23日）

その頃、3年生が子ども新聞に関心を示していたので5月19日、マサイチにワーカーが新聞作りをすすめるとすぐのってきて、ヒロコ、ヒトエも加わる。そこに、ヒロト、ユウタが加わった。20日に第1号の発刊、24日に2号、6月2日に3号と7月上旬の7号まで、係わるメンバーを増やしながら次々に発刊された。ヒロトはマサイチと共に中心的メンバーとして活躍し、この活動を通じて初めて、女子メンバーと個別交流をもった。この新聞作りは、家で子ども新聞をとってもらっていたヒロトが、それを持ってきて、クイズなどをして3年生を中心に見ていたのが文化的な活動に花を咲かせるものとなったもので、ヒロトの家庭の文化的高さが重要な役割を果たしたのである。

1期に続き5月下旬まで、おやつ前のビニールバットの野球はほぼ連日、おやつ後の木のバットの野球も活発に行われ、1年生も加え8～12人の多人数で活発に行われ、ヒロトは、その中心となりリーダーシップをとった。6月17日には、3年生の呼びかけで野球チームが2つでき、ヒロトをリーダーとするロビンはユウタ、テツシ、マサヨシ、ヒロヤ、ケンイチの6名である。一方のアンダーズのリーダーのマサイチとの話し合いで、時々、試合を行い、ワーカーが審判をした。これ以後、アンダーズのメンバーと練習をしたり、他の遊びも一緒にすることが多く、交流を深めていった。また、5月下旬に、ヒロトを含めた3年生を中心に盛んになっていた独楽回しは、その後1年生も巻き込む遊びとなっていた。更に、7月初旬、ブラレールをつなぎ、ゴムのミニカーをはじいて遊ぶカーレースは、ヒロトが考えたもので、それ以後3学期まで人気のある遊びとなる。これをきっかけに、ヒロトが、一目置かれる存在となる。おやつ時の指定席ができ、男子メンバーはその隣りに競って座りたがった。しかし、囲りの状況に無頓着であったり、すぐ人に「バカ」という態度をとり、弱い者を排除しようとする態度が見られた。

7月23日の一大行事であるキャンプ・ファイヤーへの準備を7月上旬より始めた。新聞をテーマにした社会派の劇を、ヒロトを中心に8人ですることになった。しかし、やっと12日に台本作りに取りかかり、小道具の犬鷲に至っては、やっと21日に作り上げたという彼らしいとっかかりの遅い性格をよく表しているが、彼の発想、小道具の出来ばえは素晴らしいものであった。火の使いは、選挙で、ヒロトが選ばれた。弱気なところもあるため、てれ笑いをしないよう彼の心を動かすよう、キャンプの火の神聖さについて、ワーカーは予め話しておいた。

第3期 再編成期（7月24日～8月）

夏休みのため旅行、キャンプ、田舎へ行くなどのため欠席の日が多く、参加は7月の後半と8月8日～24日の12日間だけであった。

参加した日は、レース遊びをしたり、ノックや野球をした。4日には、チームメンバーの練習をした。4日は、男子メンバー4人と女の子の服を着て遊んだり、5日には、ヒロコと戦いごっこをしたり、今までみられなかった遊びもするようになる。夏休みは、くじ屋、店屋ごっこが盛んであったが、ヒロトも4日、卒園児とヒデミツ、テツシ、トモテルと初めてくじ屋とゲーム屋をやる。

4日より、昨年同様共同製作として大きな看板にペンキで絵を描く壁画作りに取り係り、夏休みの間、多くのメンバーが参加したが、自らは全く興味を示さず、最後に少しワーカーが参加させた。

3日、田中ワーカーに「先生、マサヨシが屋根に登っているよ」と知らせに来たり、「お弁当みんなたべたよ」「今日は(野球)で疲れたよ」とワーカーとの人間的係わりも増えてくる。

第4期 成熟期（9月～12月）

夏休みも終り、再び全メンバーがそろい、スポーツにふさわしい季節ともなり、9月～11月のどの月も野

球は活発に行われ、ヒロトはその中心メンバーであった。テツシ、ヒロヤ、ケンイチ、マサヨシ、ユウタのうちの3～4人とすることが多く、そこへマサイチが加わっていることもある。特に、野球の同チームのテツシ、ヒロヤ、ケンイチとは野球を共にするだけでなく、虫採りをしたり、おしゃべりをしたり非常に緊密な関係となる。9月下旬から、いつもの野球メンバーに2年のマサシが加わることもあり、10月中旬からはやりだした壁野球には1年のヨシキ、ヒロジ、ショウイチと一緒にするなど、交友関係が広がりをみせていった。その遊び仲間で、12月17日のクリスマス会に向けて、ワーカーのすすめで劇をすることになり、ヒマラヤに行くとサンタクロースが出てくる物語の脚本作りをマサイチと協力して受けもった。ヒマラヤのアイディアなど、知的レベルの高さは、グループ全体の文化的活動を豊かにしていった。

一方、クリスマス会恒例の合奏に自ら、ピアノをかって出て、「びっくりシンフォニー」の難解なピアノを全くピアノを習ったことがないのに、ワーカーの指導に熱心に、意欲的に取り組んだ。

夏休み頃から、クラブではやっていた自作のゲームをやらせるゲーム屋をやるため、9月27日ヒロトは、ユウタと一緒にゲーム作りをする。その後、時々このゲーム作りをし、ゲーム屋をする遊びをしたが、巻きゲームと言う何mもあるものを作り、他のメンバーも真似をするようになる。

両チームの野球の試合は、9月9日、10月12、13、14日、11月1日に行われた。一方のリーダーであるマサイチと並び、グループをまとめるいい役割を果たしていることが判る。

12月に入り、寒さが増し、野球に代り、サッカーばかりとなり、中旬にはおやつ後、いつも、6～7人が2チームに分かれて試合を行っていたが、ヒロトは全く参加しなかった。

第5期 安定期（1月～3月）

サッカーが、引き続き大はやりであった。1月も連日、サッカーが行われたが、やっと参加したのは1月30日が初めてであった。それ以後、3月末日まで、時々、サッカーをするようになる。2月7日には、自分から野球チームメンバーでのサッカーの試合をやろうと相手チームを誘い、「テツシくるかな？ヒロヤくる？」同チームのメンバーがそろるか気づかう。囲りの状況に無頓着な彼の発言としては珍らしく成長が伺える。

雪の多い年であった。雪は3月末まで融けず、スキーごっこなど様々な雪での遊びが盛んであったが、ヒロトは、1月に2日程遊び、2、3月は、全く関心を示さなかった。寒いため、室内でのプロレスごっこもよく行われ、1月10日、6人のメンバーでやっているところに、後からレフェリーとしてヒロトが参加したことはあったが、それ以後は一度も参加しなかった。

2月中旬から、学校の勉強のため外出することが多く、クラブ全体が仲良く、盛り上りを見せている時に、一人白けていたが、皆んなの雰囲気の方が強く、3月22日のサッカーにも途中から加わることになる。しかし、翌日には、自分から試合を申し込むほど意欲も示した。やせていて、寒がりのせいもあり、室内でゲームやカーレースをすることも多く、いつもの仲良しメンバーに加えて、今まで殆んど関係を持たなかったタケトシ、アキト、マサツグ、ジュンジも加わり、その中でリーダーシップをとっていた。

(2) 処遇及び評価

処遇方針 野球ではクラブ一上手と目されるようになり、リーダーシップをとる。友人からはしたわれ、女の子にも人気がある。学校では、絵、読書感想文で賞を受ける。運動と並び知的にも優れているため両面でリーダーシップをとれるように援助する。優れているために人を馬鹿にした態度で、いばったり、命令したり、排他的になっていたので強者の支配にならないよう配慮していく。

処遇方法・評価 5月に始められた新聞作りは、知的

な面を発揮できるようバックアップを続けた。キャンプ・ファイヤーで火の使いに選ばれた時は、キャンプ・ファイヤーの火の意味を教え、劇の小道具の犬鷲作りになかなかとり係らない彼を鼓舞した。「どういふうにかけばいいの？」と田中に聞いたので、図鑑と一緒に見て、アウトラインを描くまで側にいた。クリスマス会の合奏では、ピアノを習ったことはないが、彼の能力ならマスターできると中心的役割のピアノ担当を田中が推め、練習に意欲をおこさせる指導をした。日常活動、行事準備の過程両面でたえず知的な刺激を与えた。

10月1日のクラブ対抗のドッチの試合で、1勝の後、負けた時「……もっと……すればよかったんだ」とくやしがる。白けることの多い彼の変貌ぶりであった。その頃、田中を呼ぶ時、「ちょっと」と背中を触ったり、帰る時間の5時になるとゴザを被って隠れたりする。12月には、母にお迎えに来てほしいと頼み、母との関係も情緒的に深いものとなった。

2月後半頃からクラスの班勉強のため外出することが多く、クラブでは白けた発言が多かったが、全体の活気ある雰囲気の中に巻き込まれる形であった。間もなくクラブ卒園の時を前にして彼らしい状況への適応方法であったものと解釈できる。ちなみに、3月末の学校のお楽しみ会にリクリエーション係をかって出て、司会役を務めるほど積極的になっていた。

V. 個人の成長プロセスよりみた諸問題

(1) 日常生活に組みこまれた

グループワークと個別的処遇

日常処遇を根幹としている養護施設等におけるグループワークを紹介する事例は、通常各種のミーティングである。しかし、この報告においては、日常的処遇をとり上げており小論で述べた「…日常的に極めて自然な形で、全人間的なトータルな影響力…」(4)こそ、

集団処遇において重要なものであり、その考えに立脚した場合「いわゆるグループワーク」も対人サービスの一専門分野として活性化するのではなからうかと考えている。

(2) グループにおける個別的処遇

個別的な処遇の実態は、事例において若干触れた通りであり、集団の中の個人であるからこそ尚更個別的処遇が必要とされる事実を示し得たのではなからうか。

また、個別的処遇を円滑にすすめるためには、ワーカー集団としての共通の理解、ワーカーの個人的処遇が他のメンバーから容認され得るようなワーカーへの信頼関係が求められる。これらの条件が満たれないと各々の関係に困難が生じ、逆にメンバー関係を阻害するおそれがある。1人のワーカーが個別的処遇に当たっている時には、他のワーカーがそれ以外のメンバーの処遇をカバーする動きが必要になるからである。

(3) 教育のプロセスの一部としての

治療的処遇(5)

特別な問題をもった児童に対しては、集団的、個別的場面における日常的処遇そのものの中に治療的な援助が含まれると考えるのが妥当であろう。

(4) 生活集団におけるワーカー

ワーカーもまた集団の構成要素であるという視点が適切であろう。生活者としての同じレベルに立つということである。(6)

(5) 児童の異年齢集団であること

それぞれの時点において異年齢の児童の相互作用の利点があることは、既に指摘されているが、1人の成長をみる時、同胞関係の全てのモデルを体験することに着目すべきである。この意味において、児童の成長を長期的展望で把え援助する必要がある。

(6) サブグループと遊び仲間

遊び仲間が多いことが必ずしもグループ所属意識が強いとは限らない。まず、緊密なサブグループに所属し、他のサブグループや個人と交流をもつ形が最も安定した所属意識をもてることになる。2事例を対比し

て見直す時、このことが明瞭に浮び上ってくる筈である。

(7) リーダーシップを育てる

1人1人をよく見詰めることから始まる。多くの実践に見られるように、3年生を班長に決め、リーダーに育てるやり方ではない。地位と役割をワーカー側が与えるのではなく、メンバーが自分の勝れた面を自覚できるように援助することによってリーダーシップを育てるのである。更に、ワーカーは、勝れた面を持ったメンバーの能力に、他のメンバーが気付いていない場合、それを知らせる伝達者の役割を果たすのである。また、そうすることによって、メンバーの相互関係を活性化させる結果を得られる。

各メンバーが得意な分野、例えば野球、ドッジ、サッカー、絵描き、劇作りや練習、虫採り、鉄棒等で、リーダーシップをとるといふ、生活場面に応じて多様なリーダーがそれぞれ役割を自ら果たしていけるよう援助することである。

(8) 家庭、学校、地域との係わり

子どもの係わっている学童保育以外の生活を考慮すべきである。活動プログラムをたてる場合、学校行事、連休等を考慮することは当然のことである。Mクラブで荒れる子どもが学校で叱られたり、家庭で愛情を注がれていない等の原因による場合が多い。子どもの全生活を視野に入れた上で、処遇について考えなければならない。

以上が、2事例の個人の成長プロセスの分析を通して考察されることである。

Ⅵ. おわりに

現在、小論から今回の研究報告まで一環したテーマ「学童保育施設におけるグループワーク」について吟味してみると、むしろ「生活集団の処遇論」若しくは「日常的処遇論」とした方が適切であったようにも思える。これは、一般的に「グループワーク」として紹

介されている極めて限定されている時間・空間における、例えばミーティングなどの場面の処遇や特殊な目的を有する処遇場面についての記述と考察を試みたものではないからである。とは言うものの、かような処遇を軽視するものではなく、重要さを理解しているので、ここにおいて十分記述していないことを心残りに思っていることもつけ加えておきたい。もう一つの理由は、子どもの全面的発達を援助するという壮大な、抱え難い目標を持った実践について若干なりとも明確化したいと考えて、まとめた報告だからである。

この一連の研究報告で明らかにしたことは、報告の仕方に不十分な点があったとしても、生活集団を把えるという新たな視点をもった報告という意味において、有意義であると思う。ただしこの報告において、個人の成長プロセスを明確化するため必要でありながら、前回の報告に記載した部分は割愛したので、前回報告を併読し補足していただきたいと願っている。また、個々の児童についてのアウトラインについては、前報告末の一覧表を参照していただきたい。

日常的処遇の範ちゅうとしては特殊であるが、キャンプ・ファイヤーとクリスマス会の演し物を目的とする小グループ作りと運営、劇作り等創作活動の援助、おやつ作り、園外保育への参加の仕方等において自主的に行動することができる人間になるために行っている援助については、一端に触れたにすぎないが、軽視している訳ではない。これもまた、紙面の都合上割愛した。

なお、この研究報告は共通の実践をしている私共2人が全てにわたり協議しながら分担執筆したものである。ただし、便宜上、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの2、Ⅳの2、Ⅴを田中、Ⅲの1と3、Ⅳの1と3を須之内、Ⅵを両者が担当することとした。

(たなか みなこ：本学家庭福祉センター研究員)

(すのうちれいこ：本学家庭福祉センター研究員)

(注)

(1) 日本女子大学文学部社会福祉学科「社会福祉」23号

(2) 同 上 同上 26号

(3) 同 上 同上 23号

(4) 同 上 同上 23号

(5) 同 上 同上 23号

(6) 同 上 同上 23号